

令和7年度 住吉高校 第3回 学校運営協議会

日時:令和8年2月12日(木)15:30~17:00

場所:住吉高校 会議室

出席者(敬称略)

○委員 5名

大塚 耕司(大阪公立大学 教授)、中西 洋(大阪市立阪南中学校校長)

森田 英嗣(大阪教育大学 教授)、八木 秀夫(後援会 会長)、佐藤 友亮(ベネッセコーポレーション)

○学校 13名

中山(校長)、久堀(教頭)、田仲(事務長)、稲木(首席)、内田(首席)、大門(総合科学科長)

西本(国際文化科長)、中川(国際部長)、山本(進路指導部長)、左(教育相談)

北口(生活指導部長)、山田(総務部長 司会担当)、鈴木(記録担当)

次第

1. 学校長挨拶 中山 玲代 校長

2. 会長挨拶 大塚 耕司 様

3. 今年度の本校の取組みについて

(1) 本年度の学校経営計画について(中山校長)

学校教育自己診断の結果と分析より評価を実施

< 学力向上と進路実現 >

- ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」はそれぞれ3.51、3.53となり、例年よりも平均が高くなった。
- ・学校教育自己診断(教員)「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている」は86.5%。
- ・公開した教科・科目横断型授業は2回実施した。あと少し各教科が挑戦するように促す。
- ・系統的な進路 HR を8回実施。
- ・進学講習を3年生は14講座。1、2年生は27講座実施。
- ・模擬試験後の分析会を8回実施。
- ・時間外勤務時間(一人当たり平均)297時間で4%の減

< 国際・科学高校としての質的な深化と成果の普及・発信 >

- ・学校教育自己診断(教員)「評価の在り方について、話し合う機会がある」71.1%。昨年は80%程。かなり減少している。ゆったりと各教科で話す時間が減っている。
- ・府外のSSH連携校は3校。共同研究の普及をしていきたい。
- ・共同研究を進める海外の高校は4校で増加した。
- ・ホームページの「住高ブログ」は令和8年1月現在で投稿500回を突破。Instagramは360回を突破した。引き続き維持していきたい。

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい能力を定め、その実現へ向けた取組みを行う。

【5つのつけたい能力】

- ① 将来への高い志と進路実現に向けての確かな学力
- ② 世界を見据えた広い視野と高いコミュニケーション能力
- ③ 柔軟な発想と探究心による課題発見力と解決力
- ④ 人権を尊重し異文化を受け入れ共感できる包容力
- ⑤ 責任を持って理念を行動に移す実行力と他者と共に取り組む協働力

< 学力向上と進路実現 >

進路ホームルームを充実させ、3年間を見通した進路指導を着実に実行する。国公立大学受験者は160名以上を目指す。そのために、模試の分析を5回以上実施、分析を反映させた校内実力テストを実施し、生徒の学力向上を図る。最後まで志を高く持つよう、粘り強く指導する。

< 国際・科学高校としての質的な深化と成果の普及・発信 >

- ・両学科が共に取り組む「総合的な探究の時間」における課題研究を深化させる。
- ・SSHの支援による研修や研究発表を実施し、SSH、ユネスコスクールの取組みを充実させる。
- ・学校教育自己診断「学校生活を通じ、将来の進路や生き方について考える様々な機会がある」「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」「学校等で他の人と協力し合うことができる」90%以上を維持する。

< 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成 >

- ・挨拶の励行・遅刻指導・身だしなみ指導を通して、生徒が「自律」の意味について考える機会を与える。
- ・日々の清掃活動を通して、身の回りの物を整理・整頓し、快適に学習できるよう指導する。

< 働き方改革の促進 >

- ・保護者・生徒連絡の方法改善や一斉退庁の促進による時間外勤務時間の削減を進める。
- ・業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。
- ・欠席連絡や学校からの連絡を主としてメール配信サービスによるものにし、電話の連絡や文書配付を極力減らす。
- ・会議に端末を持参し、紙の資料を削減する。
- ・一斉退庁日の周知と長期休暇中の定時退庁を促進する。

(2) 総合科学科の取組み・進捗状況について(大門総合科学科長)

1. 校内横断プロジェクト(探究を核にした全校体制の確立)

- ・全教員で作りに上げている。3名の教員で10テーマ程度を担当。
探究のプロセスを深めること、データの分析方法の講座を作るなど検討している。

2. ユネスコ・プロジェクト(国際探究の拡充)

- ・「科学英語」の授業を実施。仮説・検証のプロセスを英語で発表している。
- ・国際文化科設置校(千里高校・泉北高校)とのネットワーク構築を実現する。
水質がテーマの発表で交流を持っている。これを拡充していくことで、国内での共同研究のコアとなり、より発展していくことを目指している。
- ・海外研修の継続:科学探究の要素を取り入れた国際科学研修をハワイで実施する。
- ・知識を深めても実践につなげるのが難しい。

(3) 国際文化科の取組み・進捗状況について(西本国際文化科長)

1. 今年度の取組内容

- ①英検受験を推奨し、夏には2級対策講座を実施した。2026年1月時点ではCEFR・B1以上の1年生は71名、2年生は119名で目標を達成した。
- ②令和5年度より、国際関係学科が大阪市立高校を含めて13校に増加し、13校によるLETS合同発表会(探究発表)とインターナショナルフェスティバル(暗唱、スピーチ)を開催している。入場者数制限をせず、大勢の見学がある中、大きなフロアでの対面の発表および外部審査員による評価を受けることで、発表者にとっては緊張や発表の醍醐味を味わえる機会となった。オーラル英語発表で励賞受賞。

2. 国際文化科:特色ある授業の取組み状況

- ①令和7年度より総合科学科2年生でも英語ディベートを実施。国際文化科で培ったディベートノウハウを生かし「制服の是非」「校内でのスマホ使用の是非」について議論。データ収集や反論内容に客観的に情報分析をしようとする総合科学科の特徴が見られる。

3. 今後の予定

- ・英語合宿(1年生)は今年3月に2泊3日で実施予定。

(4) 国際部の取組み・進捗状況について(中川国際部長)

1. 現状

I 国際交流行事受け入れについて

- 【韓国】クムダン高校:コロナ時のオンラインでのやり取りから、7月に対面につながった。
チンド高校:部活動体験交流で11月に来校。
- 【台湾】中山女子高級中学校が2月10日に来校。
- 【オーストラリア】マムレアングリカンスクールの生徒23名の生徒が来校。授業体験やホームステイ。

II 留学生受け入れについて

昨年度から今年度にわたって3名の留学生を受け入れた。来年度はすでに一名を第二学年に受け入れ予定で他に2名の打診があっている。引き続き保護者のボランティアの方に留学生の日本語指導の協力をいただく予定。

III 海外研修について

- ①オーストラリア語学研修:今年度は参加人数を30名に増やして実施。
- ②ハワイ国際科学探究研修:20名で実施。研修後の生徒の変容は著しく校内外での英語での発表に積極的に取り組むなど成長がみられた。
- ③ベトナム・ハノイのPhan Huy Chu 高校訪問:2026年3月に新規交流研修として訪問予定。
4泊5日、20名が参加予定。2025年の1月には本校主催の国際探究フェスティバルにも発表チームが参加し2023年に始まった交流がより深まっている。今年度交流校としての提携文書を交わしたことで研修参加生徒の費用負担が軽減できた。今後は韓国姉妹校の交流とベトナム研修を隔年で行う予定。
- ④大阪府グローバル塾:今年度は本校から7名が選抜された。
- ⑤トビタテJapan:1名の生徒が海外渡航予定。
- ⑥同窓会特別奨学金によるケンブリッジ研修:今年度まで実施。3名が選抜され2月28日出発予定
- ⑦TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Program:本校生徒1名が全国20名の枠に選抜された。帰国後、一年生の学年集会で自分の体験談を共有。ユネスコスクールの国際会議にリーダーとして参加した。

IV 国内での交流活動

- ①ラオスとのオンラインは交流4年目、年5回実施。本校からの寄付物品を現地の学生が少数民族の村に届けるなど活動が広がっている。
- ②ECCグローバル体験。3日間で100名を超える生徒が参加したが来年度からは補助金がなくなるため実施されない。
- ③大阪マラソン通訳ボランティア。12名が参加を申し出ている。
- ④JICA 出前講座、大阪大学留学生との交流をそれぞれ1,2年の学年対象に実施した。

2. 課題

年々増加する研修参加希望者に対し、参加者枠のこれ以上の拡大は難しい。

(5) 進路指導部の取り組み・進捗状況について (山本進路指導部長)

1. 大学入試現況報告 (78期国公立大学の出願者総数)

総合科学(105名)、国際文化(80名)、計185名

①現況分析

これまでの進路希望調査通り、出願総数は減少した。特に総合科学科が(共通テストの全国平均が低くなったこともあり)顕著であった。国際文化科においては後期の出願が増えたことで、学科の総数も伸びた。

2. 進路指導部の活動と自己評価

①前年度から継続した取り組み

- ・進路ホームルームの設定。要所に「進路」を考える機会を確保する。
- ・各種進路行事の実施。
- ・模試の積極的な利用。校内での模試(年間2回)に加え、外部模試の受験を促す。また結果を分析する機会(生徒・教員とも)をつくり、「次」に生かす。
- ・高い目標の設定とそれを維持させる指導。進路希望調査(最低年間2回)を通じて、自身の目標を確認させる。国公立大学の魅力を配布物やその他指導を通じて発信し、国公立大学への進学を促進する。

②今年度の重点的な取り組み

- ・進路指導室を整備し、生徒が利用しやすい環境をつくる。
- ・『進路指導室だより』を毎月発行。進路に関する様々な情報を発信。一斉発信メールやブログも活用予定。

(6)生活指導部の取り組み・進捗状況について(北口生活指導部長)

①遅刻指導について

1 月末時点での遅刻総数は 2417 件であり、昨年から1クラス増だということを考慮してもかなり例年に比べて多い。きめ細やかな指導(入室許可証制度、生徒の抱える問題を明確化させるためのワークシート、早朝登校指導等)をしているが、なかなか遅刻数の減少につながっていないというのが現状。休み明けに遅刻件数が増えている。

②防犯カメラについて

- ・通用門、正門、下足ロッカーの3か所に防犯カメラを設置。

③スマホ指導について

SNS だけでなく歩きスマホや、過度なスマホ利用など依存傾向のある生徒も少なからず存在している。昨今報道されている、いじめや暴行の動画が SNS において拡散されている問題に関連して、情報モラル教育を行った。歩きスマホに関しては、「マナー改善強化週間」という新たな取り組みを毎月3日間実施しており、歩きスマホや、食べ歩きなどの校内におけるマナーの指導を強化している。食べ歩き自体について、生徒は「だめだ」という認識を持っていないため、その理由を丁寧に伝えることで減少している。

(7)教育相談の取り組み・進捗状況について(左教育相談委員)

年間23回、教育相談会議を行い、情報を共有し、スクールカウンセラー(SC)、および、スクールソーシャルワーカー(SSW)につなげ、必要に応じて支援委員会を開いた。

☆ スクールカウンセラー(SC)

年間17回、生徒数15名、保護者8名のカウンセリングを行った。

☆ スクールソーシャルワーカー(SSW)

制度が変わり、SSW に来てもらうには派遣依頼を出すなど、手続きが煩雑になってしまったが、SSW の先生が迅速に、かつ、柔軟に対応してくださるのでスムーズに行えた。

< 支援教育コーディネーター >

年間11回、支援委員会やケース会議を開き、生徒の支援内容を検討・協議し、支援を行った。

4. 質疑・協議（●質問・意見 →回答）

●中間評価の「5つのつけたい能力」はどのように評価する？

→①学力の評価、②海外交流行事、海外研修などにどのくらい参加しているかの評価、③探究へのかかわり④「人権を尊重し異文化を受け入れ共感できる包容力」⑤「責任をもって理念を行動に移す実行力と他者と共に取り組む協働力」は、学校教育自己診断の関連項目で継続して90%を超えるかどうか、を評価とする。

●業務の見える化について。現場の教員が最も負担になっているものは？それを平準化できないのか。

→ほかの教員でもできることは、他の教員にしてもらって、平準化していくことをめざす。ただ担任業務などその人にしかできない仕事が多い。年度当初に45分授業と面談の時間を作る予定。副担がヘルプして、担任の負担を減らしていきたいと思っている。

●SSHの自走について、今は？

→次年度は第4期中間評価の段階。その次の先導期に認定される学校は少ない。認定されなければ財政面でも負担を伴う時期と認識している。

●探究はすべての高校で行っている？テーマは生徒が決めている？

→現在はすべての高校で行っている。テーマ決定は、学校にもよるが、住吉高校では生徒自身がやりたいことを決めて、教員がサポートしている。2年生では80チームほどあり、1チームに大体1~5人の構成になっている。文理混合のチームを目指している。

●探究学習は中学生にも知れ渡っているのか？

→学校説明会や探究カフェ、ホームページなどで提示している。

●英語のディベートで「スマホを禁止すべき」を討論したときに、総合科学科の生徒は脳波のデータを提示していたという話は大変素晴らしい。

●国際文化科で留学希望の生徒が多いが、参加枠が少なくない。何とかならないのか。

→オーストラリア研修の枠を23名から30名に拡充した。これ以上の拡大はホームステイの質の確保が難しい。全員を行かせるとなると研修の形態を変える必要がある。現地と直接触れ合っほしいという思いがある。

●国公立の出願を増やす目標について、年内入試に力を入れたいと思っている。そのためにも、探究と連携していく仕組みを作りたいとのこと。具体的にどのような構想？

→進路で探究の情報を収集する。模試の情報も集めて、年内入試に向いているのかを考える。今年年内入試で受かった生徒は、共通テストでは合格ラインには難しい点数だった。普段から学校の取り組みを大切にしている生徒が合格しているようだった。

また、地方の国公立もいい大学がたくさんあるので、目を向けさせたいと思っている。

●中学校の今の現状として。中学校では、多様な受け入れが当たり前になってきている。遅れてきても過ごせる場所がある。その場所が当たり前になっている。

●遅刻が増えて学校に行けなくなることもある？その子にも同じように早朝登校指導などしているの？

→遅刻指導で追い詰めることがあるならやめている。その子に合わせて配慮を行っている。

●1月に遅刻者が急激に増えているが、なぜ？

→温度の変化(寒さ)、休み明けによるものが影響していると考えられる。

5. 学校運営協議会委員より指導助言・挨拶
次年度学校経営計画を承認

6. 校長謝辞